

1. 活動先

特定非営利活動法人 「地域福祉サポートちた」

2. 地域福祉サポートちたの概要

■サポートちた設立経緯

1990年に愛知県東海市で在宅サービス団体である東海市在宅介護ふれ愛が活動を始めて以来、知多半島では市民互助型在宅福祉活動が活発化した。団体間で情報交流が盛んになり、1998年5月にサポートちたの母体となる「ちた在宅ネット」が誕生する。

その後、1998年のNPO法施行や2000年の介護保険制度導入をきっかけとして各団体が組織化・事業化をさらに進めることとなり、ネットワーク組織として1999年8月に「地域福祉サポートちた」設立、同年12月にNPO法人を取得。現在10名のスタッフで運営されている。

■知多市市民活動センター

知多市市民活動センターは、市民活動の支援機能を持つ組織、団体が拠点を置き、市民活動に関する学習からボランティアやNPO活動の推進まで、さまざまな活動を応援する市民活動の総合拠点。地域福祉サポートちたは、知多市市民活動センターに拠点を置き、運営委託している。

■事業内容

知多半島は、福祉系NPOのネットワークがゆるやかに形成され、全国でもっとも発展している地域。地域福祉サポートちたは、この知多半島のネットワークの「つなぎ役」として活動し、日本地域福祉学会地域福祉優秀実践賞を受賞するほど評価されている。

サポートちたの主な事業は、人材育成・研修事業（ホームヘルパー講座、行動援護従業者養成研修講座）、情報交流促進事業（SUPPORT NEWS（機関紙）啓発・相談（福祉フォーラム、NPOバスツアー）、市民活動支援（市民カフェ ada-coda）などがある。

ヘルパー二級養成講座の修了生の中には、知多半島内のNPOで働くことがあり人材の発掘、各NPOで働く人のキャリアアップにもなる。

サポートちたに求められることは各地域、団体から出された課題を行政、五市五町で共有するアクション。

3. SL活動プログラム

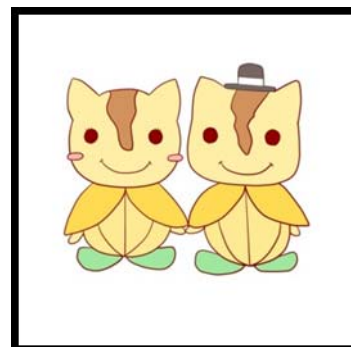
■アンケート

サポートちたのスタッフと関わりがある小中高とその保護者を対象に福祉意識アンケートを実施。

■地域福祉サポートちた

マスコットキャラクター作り

アンケートの回答者と日本福祉大学社会福祉学部の講義 NPO 論を受講している学生に依頼。地域福祉サポートちたのスタッフに選んでいただいた。マスコットキャラクターの名前は、ちーちゃんとたーくん。



■会員団体 web ページ作り

地域福祉サポートちたの会員団体の中でホームページを持っていない団体（はっぴいわん大府、ネットワーク美浜、孝行の会、あゆみ）の web ページ作成。各団体に取材をさせていただき、地域福祉サポートちたのホームページ内に載せた。

○現場体験

取材をしていくに当たって、現場を知った方がよりよい取材が出来ると提案され「ゆいの会」と「だいこんの花」で現場体験をさせていただいた。ゆいの会では、利用者さんの送迎の付添い、デイサービス、訪問介護を体験。だいこんの花では、デイサービスと訪問介護を体験させていただいた。

■NPO マネジメントセミナー受講

NPO の設立、経営など NPO のマネジメントに関する話を聴いた。講師は、元サポートちた代表であり、サービスラーニングの教員も勤めている松下典子さん。松下さんの他に、NPO 設立中の方々の話も聴くことが出来た。

■SUPPORT NEWS 内サービスラーニングページ作り

地域福祉サポートちたの機関紙、SUPPORTNEWS 内にサービスラーニングのページを作っていただいた。私たちの活動、マスコットキャラクターの紹介、アンケートの結果、など私たちの活動を掲載した。

4. 活動の振り返り 学んだこと

○計画作り

サービスラーニング（以下 S L）は、実習と違い活動先にメリットがあり、利用者

の・団体のニーズに基づく計画を立てなければならない。

中間支援ということで、高齢者、児童・障害者等明確な利用者がいないため私達に何ができるのか悩んだ。昨年の発表会を思い出しているとイベントをした先輩の姿が目にとまり自分達もイベントをしたいと考えた。そして、最初に立てた計画は、小学生対象の NPO バスツアー、福祉イベント、サポートちた会員団体用 SNS。

しかし、サポートちたにこの計画を持っていくと、バスツアーにかかるコストを見せていただき、目的、コスト、サポートちたへのメリット等を聞かれ計画の立て直しをすることになった。グループで話し合うと自分達がやりたいことを計画にただけで、サポートちたの理念、目的と外れた計画であったことに気づいた。

もう一度 NPO の事前学習を振り返ると、NPO バスツアーで訪問先のことを事前に調べているとホームページがなく情報を得られなかったことを思い出した。そして、サービスマーケティングを受講していない学生と話していると、NPO の認知度が低いことを知り、活動計画を立てた。

○活動中

アンケート

アンケートを作成する時、全く知識もなくやみくもにアンケート内容の質問を考えて、それが何のためにするアンケートなのか、誰を対象にしたものなのかをほとんど考えずに作ってしまった。またそれをろくに見直しもせずに対象者にお願いしてしまったので、いざ結果が返ってきたときにどのように役立っていいのかわからなかった。どのような人を対象とするのか何を目的とするのかを考えてアンケートをお願いすべきだった。

アンケートの結果を集計しているとわかったこともある。まず、福祉イベントへの参加意識が薄いこと。自分達が最初に企画した福祉イベントは住民のニーズになかったと知った。そして、小学生と保護者の方は福祉に興味があり、中学生は興味がなく、高校生は半々ということがわかった。

○紹介ページ作り

取材をするに当たって取材先の WEB 上での情報を集めることが出来ず、情報の大切さを知った。

代表の話しを聞くだけで終わらず、利用者の方と接する事が出来た。インタビューだけでは感じる事の出来なかった、その場の雰囲気や利用者の方同士の関係を知った。

○活動後

現場体験、取材で活動に行った先々で、「あそこの代表本当にいい方」「NPO を立ち

上げる前、あの人から勉強した」等他団体の話を自分のことのようにされていました。サポートちたのスタッフは、聞けばどんな団体についても教えてくださいました。つながるということはまず、相手を知ることだと気づいた。

全ての活動が、つながることの大切さを学ぶことが出来た。

マスコット、アンケートは、私たちだけでは答えていただく人や考えていただく人を見つけられなかった。サポートちたのスタッフを通じて回答していただいた。

NPO マネジメントセミナーでは、参加者、松下さんの NPO 設立までの話の中につながるキーワードがあった。NPO 設立までの備品や人材集めに必要だったのは、つながり。他者とつながることで、助成金や寄付、必要なモノの情報がつながりを通じて入ってくる。

一人では「やってみよう、何とかしたい」と思ってもなかなか出来ない。仲間とつながることでその思いは夢から現実になっていくというつながる大切さを学んだ。

そして、サポートちたは、そんな「やってみよう、何とかしたい」と思っているつながりの輪を広げる、そして別の輪とつなげることが活動で中間支援だと改めてわかった。

○深めていきたいこと

2010年7月末、大阪二児遺棄事件がありました。

起こった原因 色々あるが、アパート住民がお互いを知り、つながっていれば未然に防ぐ事は出来たと思う。近年、つながりが希薄化したために発生した事件がたくさんある。そんな時代だからこそ、「つなぐ つながる つながり」が大切で、福祉職を希望するものとして学んでいきたい。

5、おわりに

最後に、本活動でお世話になりました全ての方々、特に地域福祉サポートちたのスタッフの方にお礼申し上げます。

私たちの不甲斐無さにより予定より多くの時間を費やしてしまい、サポートちたのスタッフの皆様に大変迷惑をかけてしまいました。

初めての活動で分からない事だらけの私達でしたが、最後まで見捨てることなく熱心に協力してくださり、心より感謝申し上げます